281 脳腫瘍例におけるTl-201 SPECTの意義

戸村則昭，小林　満，加藤敏郎(秋田大学医学部放射線科)
佐々木一文，田村清彦（秋田大学中央放射線部）

Tl-201 chloride single photon emission computed tomography (Tl-201 SPECT)を，種々の脳腫瘍患者に施行し，その有用性について検討した。対象は25例で，glioblastoma, astrocytoma grade Ⅲ, meningioma，転移性腫瘍などである。SPECTは，東芝社製GCA 90B E2を用い，early imageおよびdelayed imageを得た。解析は，対側半球の対称部に対する腫瘍部の放射能の比を測定した。いずれの腫瘍も，正常部に比し高集積を示したが，対称部に対する放射能比では，その組織型による差異がみられた。7例では，腫瘍に対する抗癌剤の超選択的動注療法や放射線療法の前後に行い，その変動についても検討し，治療効果判定についての本法の意義についても言及する。

282 原発性肺癌のN因子描出におけるTl-201の SPECTの有用性

松野慎介、日野一郎（住友別子病院放射線科）
細川敦之、瀬尾裕之、川崎幸子、佐藤　功　、田辺正忠（香川医大放射線科）

原発性肺癌47例にTl-201 chloride とGa-67 citrateのSPECT を施行し、手術肺にて肺門・縦隔のN因子についてretrospective に検討した。症例はN0　31例、N1 8例、N2 7例、N3 1例である。肺門リンパ節でTl-201はsensitivity 94%、specificity 89%、accuracy　91%、Ga-67 はsensitivity　100%、specificity 32%、accuracy　50%であり、縦隔リンパ節ではTl-201はsensitivity　100%、specificity 89%、accuracy　91%、Ga-67 はsensitivity　100%、specificity 56%、accuracy 62%であった。同症例のＣＴでの縦隔リンパ節の評価も合わせて報告する。

283 Ｔ１－２０１肺ＳＰＥＣＴによる肺癌と良性肺病変の鑑別における有用性

折橋　典大，菅　一能，由水多津子，副島　京子，金子隆文，河村　光俊，中西　敬（山口大学放射線科）
宇津見　博基，杜下　淳次，山田　典将（山口大学放射線部）

肺癌でのＴ１－２０１肺ＳＰＥＣＴの有用性が報告されているが，その二次性変化や様々の良性肺病変との鑑別における有用性を検討した報告はいまだ少ない。

今回，胸部Ｘ線写真上，比較的広範囲な病変を有する良性肺病変を中心にＴ１，２２２ＭＢｑ投与し，その早期と遅延ＳＰＥＣＴ像を得，Retention index を求め，Prospective な検討を行った。

肺癌では　Retention index は高値を示すのに対し良性病変ではマイナス値をとることが多く，Ｔ１－２０１肺ＳＰＥＣＴは両者の鑑別に有用な手段と思われる。

284 肺癌におけるＴ１－２０１を用いたＳＰＥＣＴによる集積度の半定量化への試み

山路滋、山崎克人、野村曜子、平井宏和、石井一成、北垣一、田中豊、白坂今日子、井上善夫、河野通雄（神戸大学放射線科）

肺癌におけるＴ１－２０１の集積度の半定量化を目的として以下の検討を行った。基礎的研究：環境効果や吸収補正のためにＣＴ用肺ファントムを用いたCalibrationを行った。臨床的研究：肺癌患者を対象として、Ｔ１ early phaseおよびdelayed phaseのＳＰＥＣＴ撮影を行い集積度を評価し、治療効果判定への有用性を検討した。またＳＰＥＣＴ像とＭＲＩ，ＣＴ像との対比も行った。

285 胸部腫瘤性病変に対する核医学検査：Tl-201、Ga-67およびTc-99mHM-PAOの比較

伊藤　和夫、永尾　一彦、鐘ヶ江　香久子、塚本　江利子、中駄　邦博、古舘　正従（北海道大学核医学科）、竹川　宏典、阿部　庄作（北海道大学第一内科）

Tl-201、Ga-67およびTc-99mHMPAOを用いて胸部腫瘤性病変に関する診断率を中心に検討した。

方法はTl-201は111MBq(3mCi)静注後、15分と120分後の２回、planarおよびSPECT像を撮像した。Ga-67は74MBq-111MBq静注後48あるいは72時間後に全身、胸部スポット像、症例によってはSPECT像を撮像した。Tc-99mHMPAOは740MBq(20mCi)静注直後と2-4時間後にplanarおよびSPECT像を撮像した。

Tl-201は肺癌例で最も高い陽性率を示し、Ga-67、Tc-99mHMPAOの順であった。また、Tl-201はGa-67よりも縦隔リンパ節病変の評価に優れており、stage評価の可能性が示唆された。Tc-99mHMPAOは腫瘍よりも周辺組織に集積する傾向が見られた。

286 Tl-201 肺 SPECT による肺癌診断の有用性 —肺腫径と陽性率の検討—

熊田　倫，河上　聡，左合　直，野口正人(福井赤十字病院放射線科)　石井　靖(福井医科大学放射線科)

Tl SPECT を施行し病理学的検討がなされた肺腫瘤性病変68例においてTl SPECT の肺癌診断の有用性をＴ因子に限り検討した。SPECT は利波らの方法に従い，6mCi 静注後15分，3時間に撮像し，後期像での集積増加を陽性とした。68例中肺癌は33例で，その中腫瘤径3cm以上は22例であり陽性率100%，一方腫瘤径3cm未満の場合11例中陽性は8例，陽性率73%であった。最小検出腫瘤径は1.5cmであった。偽陰性3例中2例は Tx，Tis 症例で残り1例は腫瘤径1.5cmであった。

T2以上(3cm以上)及び2cm以上の T1症例においては Tl SPECT は有用である。しかし2cm未満例においては今後の検討が必要と思われる。

Presented by Medical*Online